

大学申請書

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福島学院大学
設置者名	学校法人 福島学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
福祉学部	福祉心理学科	夜・通信			14	14	13	
	こども学科	夜・通信			18	18	13	
マネジメント学部	地域マネジメント学科	夜・通信			16	16	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

上記ホームページで公表のシラバス内に実務経験の有無を記載
また、実務経験のある教員による授業科目の単位数については添付資料のとおり

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福島学院大学
設置者名	学校法人 福島学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/corporation_info/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	他大学嘱託教授	2025.5.31 ～ 2029.6月定 時評議員会 終結の時	教育・地域連携
非常勤	他大学非常勤講師・職員	2025.5.31 ～ 2029.6月定 時評議員会 終結の時	教育・入試制度担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福島学院大学
設置者名	学校法人 福島学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各授業科目に関して、授業方法・内容、到達目標、成績評価の方法・基準等を明記した授業計画書(シラバス)を作成・公表しており、これを通じて教育の透明性を確保し、学生の主体的な学修を支援している。 シラバスの作成にあたっては、毎年1月初旬に全教員へ対して「シラバス記入要領」および「シラバス作成マニュアル」を配付し、Web入力方式にて作成を依頼している。これにより、履修登録システムとの連携を図るとともに、内容の標準化と記載の質の向上を目指している。 シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)や教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成することとしている。 また、授業の到達目標、成績評価の在り方、総合力の修得に加えて、コミュニケーション力・実践力等の能力、主体的に学習に取り組む態度の育成、また、担当授業科目が能力育成のどの部分を担うかを示し、学修成果の可視化に向けた取り組みの一環としている。 実務経験のある教員の担当科目については、担当する授業科目に関連し、その実務経験を十分に授業に活かしながら、実践的教育を行うこととし、シラバスに掲載している。 学生に対しては、4月初旬に実施される学科別オリエンテーションにおいて、シラバスの確認方法や履修登録手続き等をマニュアルに基づき説明しており、学生はWeb上でシラバスを参照しながら履修登録を行っている。 【スケジュール】 ・1月初旬：教員へ「シラバス記入要領」等を配布し、作成依頼 ・1月下旬～2月：教員によるweb入力作業 ・3月下旬：web履修登録に向けて、シラバス内容の確認・公表 ・4月初旬：学科別オリエンテーションで学生への説明、履修登録実施	
授業計画書の公表方法	『シラバス記入要領』 各教員に配布(別添) 『授業計画(シラバス)』 福祉学部 福祉心理学科・こども学科 マネジメント学部 地域マネジメント学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

また、シラバス記入要領により、成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も記載することとしている。

学生に対しては初回授業の際に具体的に説明を行い、成績評価にあたっては、より公正な成績評価となるよう補足的事項（シラバス記入要領 P13～P15）を定めている。

また、教員授業実施規程を定め、授業の実施にあたり留意すべき事項、本学の教育理念の実現等、魅力ある授業の実施について規定し、これを遵守することとしている。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学の成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格としており、学生が単位を取得するためには、履修した科目について60点以上の評価を受けなければならない。

GPAの算出方法については、「成績評価及びGPA制度に関する規程」に基づき、各授業科目の成績評価を5段階で判定し、それぞれに評価記号及びGP (Grade Point) を付与した上で算出している。

なお検定試験等により、単位認定を受けた科目は対象外となる。

成績評価とGPの対応

A+ (100～90点)	: GP4.0
A (89～80点)	: GP3.0
B (79～70点)	: GP2.0
C (69～60点)	: GP1.0
D (59点以下)	: GP0.0

学期 GPA 算出方法

$$\frac{\text{当該学期の A+ の単位数} \times 4.0 + \text{A の単位数} \times 3.0 + \text{B の単位数} \times 2.0 + \text{C の単位数} \times 1.0}{\text{当該学期の履修登録科目単位数の合計}}$$

累積 GPA 算出方法

$$\frac{\text{在学期間中の A+ の単位数} \times 4.0 + \text{A の単位数} \times 3.0 + \text{B の単位数} \times 2.0 + \text{C の単位数} \times 1.0}{\text{在学期間中の履修登録科目単位数の合計}}$$

各科目においては、多面的・総合的に判断し、評価基準は測定可能なものとし、学生から評価の根拠を照会された場合、その根拠を明確に説明できるようにしている。

なお、卒業認定・学位授与要件の一つとして、累積 GPA1.0 以上が盛り込まれている。

成績通知書には当該学期の学期 GPA・累計 GPA を記載し、各学期末に学生と父母等に通知している。

各学期末に算出した GPA の一覧を各学科へ報告し、各学科においては、それを基に学生への個別支援や履修指導等を行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

『GPA の算定について』

<https://www.fukushima-college.ac.jp/gpa/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学公式ウェブサイト等を通じて公表している。規定する個々の評価を本学が定める GPA 基準により総合的な学修経験を通して修学し、学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「学士」の学位を授与することとしている。

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 福祉学部 福祉心理学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/)
(概要) 福祉心理学科においては、社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング等の分野において将来の専門職として必要な教育を行うとともに、他者の心の痛みに共感でき、心の痛みを抱える人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/ 、 https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_psy_learning/)
(概要) 本学の教育目的及び人材育成の目的に基づき、福祉心理学科における学修を通して以下に示す能力・技能等を身に付け、高度な実践力を修得することを求めます。福島学院大学学則に定める所定の卒業要件を満たした者に、「学士(福祉心理学)」の学位を授与します。 (1) 総合力 ：福祉学と心理学の学びを通して、「人」に対する理解を深め、社会の仕組みに関する知識を身に付けていること。 (2) 課題解決力 ：現代の多様な社会的課題に関心を持ち、福祉的視点、心理的視点から課題解決の方法を考えることができること。 (3) 構築力 ：福祉・心理の専門職の立場を理解し、他者や他職種と協働することを意識して、多様な社会的課題の解決のための具体的な実践に結びつけていくことができること。 (4) コミュニケーション力 ：日常の中のコミュニケーションを大切にし、相互理解のために自ら働きかけることができるだけでなく、専門的なコミュニケーション能力への理解を深めていること。 (5) 実践力 ：社会人としての責任を果たす準備が整い、福祉学と心理学の知識や技術を活用して社会に貢献しようとしていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/ 、 https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_psy_learning/)
(概要) 福祉心理学科は、ディプロマ・ポリシーの達成に向けて、学生自身が主体的に学修を推進し、卒業認定や学位授与に求められる能力や資質ならびに専門性を身に付けていくために、体系的な教育課程の編成を行っています。 (1) 教養教育科目 学士力の基礎となる基本的な教養を身に付けることだけでなく、広い視野から思考し、総合的な判断、深い洞察ができる力を涵養する充実した教養教育の編成を実施している。

(2) 専門教育科目 福祉学・心理学の専門性を身に付け、高い知識・技能を修得できる力を涵養する科目編成を実施している。カリキュラムツリーやナンバリングなどを示し、積み上げられていく学習プログラムの構成としていることにより、適切で十分な学習成果を得られるような編成を実施している。 (3) 実践的体験的科目とその教育課程の編成 社会の変化や多様な社会的課題に関心を寄せ、福祉学・心理学の知識をもとにそれらの課題を解決する方法を検討できる力を涵養する。 そのために、演習・ゼミナールやアクティブラーニングなどの双方向型授業を主体とし、フィールドワークも活用したプロジェクト型の教育（PBL）を提供する。また、学外実習やボランティア活動等の科目の履修を通して、福祉支援・心理支援における実践力を磨き、専門的職業能力を育成する。 福祉・心理の現場で活躍する人材を招聘したキャリア教育の充実を図っており、座学と実践を結びつける実践力を高めていく。 (4) グローバル視点とコミュニケーション能力等 日常的なコミュニケーションだけではなく、福祉や心理の現場で求められる専門的なコミュニケーション技術を、模擬面接やグループ演習などを通して身に付けられるような科目編成を行っている。 多文化共生など、今日的な福祉的課題にも対応できる力を涵養するために、国際的な課題や異なる文化への理解を深め、多様性への対応力を付けるための科目を教養教育科目に配置している。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/、 https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_psy_learning/)
(概要) 建学の精神「真心こそすべてのすべて」、および大学の教育理念・目標を理解し、福祉心理学科における教育を受けるために必要な、次に掲げる資質・能力を備え、将来、福祉や心理の分野での活躍を目指す人を求めます。 (1) 高い勉学意欲をもって、福祉学や心理学を学びたいという目標を持ち、将来それぞれの分野での活躍を目指している。 (2) 本学での学習に必要な基礎的な知識・技能を持ち、論理的・探求的思考ができる。 (3) 現代社会の様々な課題に興味関心を寄せ、それらの課題が発生している背景を考え、解決を目指そうとする思考力・判断力・表現力を有している。

学部等名 福祉学部 こども学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/)
(概要) こども学科においては、教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、乳幼児期を中心とした保育および幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに保育士として指導的役割を担うことのできる人材を育成することとしている。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/、 https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/)
(概要) 本学の教育目的及び人材育成の目的に基づき、こども学科における学修を通して以下に示す能力・技能等を身に付け、高度な実践力を修得することを求めます。福島学院大学学則に定める所定の卒業要件を満たした者に、「学士（こども学）」の学位を授与します。 (1) 総合力 人間や文化について幅広い知識を身に付け、多様な価値観を受け入れ、様々な状況にも柔軟に対応できる思考力・判断力・実行力等が備わっていること。 (2) 課題解決力 様々な問題や課題を的確にとらえ、保育、教育、福祉の視点から、その解決に取り組むための知識、理解、意欲、態度が身に付いていること。 (3) 構築力 保育・教育・福祉にまつわる新たな課題に向き合い、的確に分析するとともに、その解決方法を構想し、形にする力を有していること。 (4) コミュニケーション力 子どもから大人まで、多様な人間関係の中で、他者との意思疎通、相互理解を円滑に行う上で必要な表現力や態度が身に付いていること。 (5) 実践力 変化し続ける社会情勢を的確にとらえ、保育・教育の専門性を発揮し実践するための知識、技能、態度が身に付いていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/、 https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/)
こども学科は、卒業認定や学位授与に求められる能力や資質を身に付け、ディプロマ・ポリシーの達成に向けて学修を推進し、ディプロマ・ポリシーが示す能力と専門性の養成のために、以下の方針に基づいて体系的なカリキュラムの編成をしています。 (1) 教養教育科目 学士力の基礎となる知識や技術の獲得を目指し、より興味を持って取り組み、その能力の必要性を感じながら主体的に学べるよう配慮したカリキュラムを編成しています。幅広い視野での相関的並びに融合的なカリキュラム編成をより重視している。 また、初年次教育等を含む教養教育分野は、次第にたどり着く専門分野への入り口として位置づけられており、専門分野にも配慮したカリキュラム設計としている。 (2) 専門教育科目 こども学科の教育課程は幼稚園教諭一種免許状取得のための教職課程及び保育士養成の教育科目を中心に、系統的に編成している。さらに、教育・保育・福祉における、

より高度な専門性を修得するための本学独自科目及びゼミナールを配置している。また、その到達目標達成への道筋をナンバリングやカリキュラムツリーに示し、学修を進めることができるようにプログラムを組んでいる。

(3) 実践的・体験的科目

学外での保育・教育実践や体験的科目として、幼稚園教育実習と保育所実習、その事前事後指導や保育実習指導の授業科目においても、学外での保育・教育現場での体験学習を積極的に実施している。

また、指導法の科目等においては、指導計画案の作成から模擬保育など、アクティブラーニングによる学びを取り入れ、学外実習先や就職先における実践力向上に繋がるよう教育課程を編成している。

(4) グローバル視点とコミュニケーション能力

保育者の専門性として特に求められるスキルは、子どもをはじめ、その家庭及び保育者間の協働のためのコミュニケーションであり、その能力向上に必要な表現力や、語学力修得のための教育科目を教養教育科目、専門教育科目の両方に配置している。

また、国際化という視点からは、異文化理解及び外国語科目を教養教育科目に配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/>、
https://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/)

(概要)

建学の精神「真心こそすべてのすべて」、大学の教育の理念及び教育目的を理解し、こども学科における教育を受けるために必要な、次に掲げる資質・能力を備え、将来、保育者として社会貢献を目指す意志を有している学生を求めます。

(1) 将来、保育者として子どもの教育・福祉に貢献したいという明確な目標をもち、目標達成のために本学での学修に積極的かつ躍動的に取り組む意欲と行動力を有している。

(2) 本学での学修に必要な基礎的な知識・技能、子どもや子どもの環境に関する専門分野において必要な論理的・探究的思考ができる。

(3) 子どもや子どもの環境に関する様々な課題に対応できる思考力・判断力・表現力を有している。

学部等名 マネジメント学部 地域マネジメント学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/)
(概要) マネジメント学部地域マネジメント学科は、「ふくしまならではの学び」によって将来に向けて挑み続ける社会を実現することを教育理念に掲げ、この理念のもと持続可能な地域の創生と活性化に貢献する人材を養成することとしている。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/ 、 https://www.fukushima-college.ac.jp/mgt_manegement_learning/)
(概要) マネジメント学部は「ふくしまならではの学び」として、福島復興をモデルに、地域固有の諸課題を改めて見直し課題解決の道筋を考え、地方創生の足がかりを構築していくプロセスをマネジメントすることによって持続可能な地域の創生と活性化を目指すものであり、本学のDP（ディプロマ・ポリシー：学位授与方針）を踏まえ、本学部が目指す人材養成の観点から、学生がどのような能力を修得し、その能力をどのように生かして社会で貢献する人材を養成することを目指しているのかを具体的に明らかにするため、本学部での学びによる学修到達目標としてマネジメント学部のDPを次のように定め、学則に定める卒業に必要な要件を満たした者に対して卒業を認定し、「学士(マネジメント)」の学位を授与する。
①大学の学位授与方針 DP1. 総合力 人間や文化について幅広い知識を身につけ、広い視野から理解することができる思考力・判断力 DP2. 問題発見・解決力 現代社会に関心を持ち、課題を見つけ出して解決に取り組むことができる関心・意欲・態度 DP3. 構想・構築力 新たな問題を言語化またはモデル化し、それに対する分析や提案を行い、論理的に説明する力 DP4. コミュニケーション力 学びによる能力や素養を活かすために、他者との相互理解を実現する力 DP5. 実践力 専門性を実践するために必要な知識・能力・技能
②学生が修得するマネジメントの力とマネジメント学部のディプロマ・ポリシー DP1. 思考力・判断力 1) 人間や文化について幅広い知見を身につけることによって、マネジメントに必要な広い視野から柔軟に考え判断することができる。 2) 幅広い知見に基づいて、時代と地域の課題を的確に捉え判断するための基礎的能力を有している。 DP2. 情報収集・分析力 1) 新たな社会を見据えて広く現代社会に関心を持つとともに、マネジメントに必要な適切な情報収集力と客観的な分析力を修得している。 2) ICT (Information and Communication Technology) を理解し、マネジメントに応用できる技術と能力とを修得している。 DP3. 構想・構築力 1) マネジメントに必要な専門基礎力をもとに、地域の課題を発見しその解決の方向性を

想定する発見力と構想力を有している。

2) マネジメントの専門的知見から、地域経営や地域政策に関する構想を具体的な提案として構築する力を有している。

DP4. 表現力・コミュニケーション力

1) 課題に対応した活動の価値を言語やモデルを通して伝え、マネジメントのための情報として表現し発信することができる。

2) 課題に対応するための企画を動かすリーダーシップによって他者との相互理解をはかり、マネジメントに必要なコミュニケーション力を有している。

DP5. 実践力・総合力

1) さまざまな課題の解決に取り組むために、人と物の資源を組織化するマネジメントの実践力を身につけている。

2) 状況を客観的に評価・修正し、組織に成果をもたらすために考え行動する総合的なマネジメントの実践技術と能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/>、
https://www.fukushima-college.ac.jp/mgt_manegement_learning/)

(概要)

マネジメント学部教育課程編成は、本学が掲げる建学の精神及び教育目標と人材像、DPに則り、マネジメント学部の目的及びDPとの整合性を図るとともに、学士力の獲得と、「ふくしまならではの学び」を達成するためのCP（カリキュラム・ポリシー）を設定している。

①CP1. 思考力・判断力を高める

1) 自然・人文・社会・言語分野の「教養教育科目」による幅広い知識の融合を通して、マネジメントに必要な広い視野や人間の本質などに関する深い洞察力と柔軟な思考力を涵養する。

2) 本学独自の学びの導入として「ふくしまに学ぶ(基礎)」により、地域貢献への意識を再認識し、実践的な学びの入口に立つとともに、「基礎ゼミナール」を通して大学での学びに必要な基礎力を高める。

②CP2. 情報収集・分析力をつける

1) 新たな時代を見据えて現代社会を理解するために、「教養教育科目」を通してマネジメントに必要なさまざまな情報収集力と分析力を獲得する。

2) マネジメントの基礎を獲得するためのアカデミックリテラシーとして ICT に関するリテラシー科目を必修とするとともに、マネジメントに必要な経済統計やデータ分析などの科目を置く。

③CP3. 構想・構築力を育む

1) マネジメントに関わる理論分野の学問体系を包括的に学修する入門科目として、「専門基礎科目Ⅰ、Ⅱ」を設け、経営学、経済学、政策学等の基礎科目を学び、「専門ゼミナール」によって課題解決の方向性を発見させる。

2) 地域課題のマネジメントを専門的に学ぶために、地域の金融、企業経営、流通、交通経済等を学ぶ「地域経営」と防災・危機管理政策、公共政策、メディア、地域コミュニティ等を学ぶ「地域政策」の2領域を設定し、学生が目指す将来キャリアに応じて段階的に各論・応用科目を選択できるよう構成することで、地域課題に対する具体的な提案をできるようにする。

④CP4. 表現力・コミュニケーション力を身につける

1) 現地での演習（「被災地フィールドワーク」「企業・行政・エクスターンシップ」「地域連携演習Ⅰ」「地域連携演習Ⅱ」「専門ゼミナールⅠ～Ⅲ」）によって、マネジメントをことばで説明する表現力・コミュニケーション力を培う。

2) 学生参画対話型教育（アクティブラーニング）を通して、マネジメントに必要なリーダーシップや相互に理解する力を培い、コミュニケーション力へとつながる基本的な語

学力を養成するために、マネジメントに関する実践的な語学科目を置く。

⑤CP5. 実践力・総合力を培う

1) 「ふくしまに学ぶ(応用)」によって体験的学修を取り込みながら、実社会における諸活動に結びつけ、「専門ゼミナール」を通して、的確な判断の基に課題解決の道筋を提案する実践力、総合力を培う。

2) 学びの成果を集約し、達成度を総合的に測る指標となる「卒業論文・卒業研究指導」を置く。

⑥CP6. 厳格な成績評価を行う

学修成果は、各授業科目のシラバスに示した授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)にしたがい、中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等(以下「試験等」という)によって、到達目標と達成度に応じた厳格な成績評価を行う。

各科目は、DPとの対応関係を示す「カリキュラムマップ」と教育課程内における当該授業科目の関連性を表す「カリキュラムツリー」等により整理し、教育の質の向上に活かし、大学ホームページを通じて公表している他、新入生に配布する「地域マネジメント学科の教育」を通じてオリエンテーション時や履修登録時において周知している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/>、
https://www.fukushima-college.ac.jp/mgt_manegement_learning/)

(概要)

地域マネジメント学科は、幅広い知識と専門性を備え、柔軟な発想と行動力をもって、持続可能な地域の創生と活性化に貢献する人材を養成する(DP)ため、本学における学びとして構築された教育課程と教授方法(CP)を受け止め、自ら進んで学ぶことのできる人材であるかについて、教科・科目の筆記試験を中心とする基礎学力に関する試験や、面接等を採り入れた各種選抜試験によって、文部科学省が示す学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を評価することを基本方針とし、その際の選抜方法として以下の観点を定めている(AP:アドミッション・ポリシー)。

1. 高校教育を広く学修し、マネジメントを学ぶために必要な思考力や判断力を一定程度有している。
2. ICT (Information and Communication Technology) やマネジメントに興味をもち、マネジメントに関する情報やその情報について考えることに関心を持っている。
3. 高校教育をとおして、課題を探究しその課題について道筋を立てて構想・構築することに一定程度関心がある。
4. 高校教育をとおして基本的なコミュニケーション能力を身につけ、人的ネットワークへの理解があり、人と協働する姿勢を一定程度有している。
5. 行動力と実行力を一定程度有している。

マネジメント学部地域マネジメント学科の入学選抜では、上記APに沿って、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、指定校推薦型選抜により入学者選抜を行っており、学力試験を通して本学で学ぶために必要な学力を計り、面接を行うことで総合的に確認している。

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/research_organization/

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
福祉学部	－	12 人	6 人	7 人	0 人	0 人	25 人
マネジメント学部	－	8 人	2 人	2 人	1 人	0 人	13 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		0 人					1 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/teacher_profile/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
福祉学部	110 人	113 人	102.7%	440 人	375 人	85.2%	人	2 人
マネジメント学部	90 人	44 人	48.9%	360 人	170 人	47.2%	人	人
合計	200 人	157 人	78.5%	800 人	545 人	68.1%	人	2 人
(備考) ※令和 5 年度マネジメント学部を設置								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
福祉学部	113 人 (100%)	8 人 (7.1%)	100 人 (88.5%)	5 人 (4.4%)
合計	113 人 (100%)	8 人 (7.1%)	100 人 (88.5%)	5 人 (4.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目は、各学科において教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき体系的に編成している。 シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成している。 各シラバスには、授業回（通常 15 回）ごとの具体的な授業内容や課題、使用教材、成績評価方法などを記載し、web 履修登録に先立ち学生に公開している。また、履修登録前には、学科別オリエンテーションにてシラバスの活用方法を説明し、学生が主体的に学修計画を組み立てられるよう支援している。
--

⑥

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。 また、シラバス記入要領により成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も明記することを求めている。 また、学生に対しては初回授業において、成績評価の方法や基準について具体的に説明を行うことを義務付けており、より公正な成績評価の実現に向けて、補足的事項（シラバス記入要領 P13～P15）も設けている。 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学が定める GPA 基準により総合的な学修経験を通して、学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「学士」の学位を授与する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
福祉学部	福祉心理学科	124 単位	有・無	単位
	こども学科	124 単位	有・無	単位
マネジメント学部	地域マネジメント学科	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/campus_index/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
福祉学部	福祉心理学科	800,000 円	150,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、 家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を 実費徴収
	こども学科	800,000 円	150,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、 家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を 実費徴収

マネジメント学部	地域マネジメント学科	800,000 円	150,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、 家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を 実費徴収
----------	------------	-----------	-----------	-----------	--

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 遠方からの入学者のためにアパート情報の提供や、アルバイト・ボランティアの情報を提供している。また、日本学生支援機構や社会福祉協議会等の各種奨学金について説明会や個別相談を行う等、学生の手続きが円滑に進むよう支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援課と学科キャリア担当教員が連携し、学生の進路相談を個別にきめ細かく実施し学生満足度の高い進路決定の支援をしている。自己分析や業界・職業研究等のガイダンスやセミナーを実施するだけでなく、応募書類の書き方説明や面接指導など、就職活動の支援を行っている。福島新卒応援ハローワーク、社会福祉協議会、私立幼稚園・認定こども園連合会、市役所等と連携を取り、学内就職説明会や見学会を実施するほか、求人情報や説明会等の情報を随時提供している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 年1回の定期健康診断だけでなく、全学生から健康調査票を収集し健康状態の把握に努めている。医務室は時期に応じた健康に関する注意喚起を定期的実施、また学科教員との連絡を密にし、体調不良の学生へのアフターフォローを徹底している。定期的に学生健康相談委員会、障がい学生支援委員会を開催し、情報共有や課題について話し合いを行っている。また、臨床心理士・公認心理師資格を持つ学生カウンセラーを配置し、学生からの個別相談を受付け、学生の心の支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_activity/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F107310101340
学校名（〇〇大学 等）	福島学院大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人福島学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		159人（ 90 ）人	152人（ 81 ）人	147人（ 79 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	43人	40人	
	（うち多子世帯）	（ ー人）	（ ー人）	
	第Ⅱ区分	26人	25人	
	（うち多子世帯）	（ ー人）	（ ー人）	
	第Ⅲ区分	16人	14人	
	（うち多子世帯）	（ ー人）	（ ー人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	30人	27人	
	区分外（多子世帯）	44人	46人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				147人（ 79 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	— 人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	20人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	20人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

短期大学部申請書

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人 福島学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	保育学科	夜・通信			13	13	7	
	食物栄養学科	夜・通信			14	14	7	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

上記ホームページで公表のシラバス内に実務経験の有無を記載
また、実務経験のある教員による授業科目の単位数については添付資料のとおり

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人 福島学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.fukushima-college.ac.jp/corporation_info/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	他大学嘱託教授	2025.5.31 ～ 2029.6月定 時評議員会 終結の時	教育・地域連携
非常勤	他大学非常勤講師・職員	2025.5.31 ～ 2029.6月定 時評議員会 終結の時	教育・入試制度担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人 福島学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各授業科目に関して、授業方法・内容、到達目標、成績評価の方法・基準等を明記した授業計画書(シラバス)を作成・公表しており、これを通じて教育の透明性を確保し、学生の主体的な学修を支援している。 シラバスの作成にあたっては、毎年1月初旬に全教員へ対して「シラバス記入要領」および「シラバス作成マニュアル」を配付し、Web入力方式にて作成を依頼している。これにより、履修登録システムとの連携を図るとともに、内容の標準化と記載の質の向上を目指している。 シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)や教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成することとしている。 また、授業の到達目標、成績評価の在り方、総合力の修得に加えて、コミュニケーション力・実践力等の能力、主体的に学習に取り組む態度の育成、また、担当授業科目が能力育成のどの部分を担うかを示し、学修成果の可視化に向けた取り組みの一環としている。 実務経験のある教員の担当科目については、担当する授業科目に関連し、その実務経験を十分に授業に活かしながら、実践的教育を行うこととし、シラバスに掲載している。 学生に対しては、4月初旬に実施される学科別オリエンテーションにおいて、シラバスの確認方法や履修登録手続き等をマニュアルに基づき説明しており、学生はWeb上でシラバスを参照しながら履修登録を行っている。 【スケジュール】 ・1月初旬：教員へ「シラバス記入要領」等を配布し、作成依頼 ・1月下旬～2月：教員によるweb入力作業 ・3月下旬：web履修登録に向けて、シラバス内容の確認・公表 ・4月初旬：学科別オリエンテーションで学生への説明、履修登録実施	
授業計画書の公表方法	『シラバス記入要領』 各教員に配布(別添) 『授業計画(シラバス)』保育学科・食物栄養学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_study/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

またシラバス記入要領により、成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も記載することとしている。

学生に対しては初回授業の際に具体的に説明を行い、成績評価にあたっては、より公正な成績評価となるよう補足的事項（シラバス記入要領 P13～P15）を定めている。

また、教員授業実施規程を定め、授業の実施にあたり留意すべき事項、本学の教育理念の実現等、魅力ある授業の実施について規定し、これを遵守することとしている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学の成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格としており、学生が単位を取得するためには、履修した科目について60点以上の評価を受けなければならない。

GPAの算出方法については、「成績評価及びGPA制度に関する規程」に基づき、各授業科目の成績評価を5段階で判定し、それぞれに評価記号及びGP (Grade Point) を付与した上で算出している。

なお検定試験等により、単位認定を受けた科目は対象外となる。

成績評価とGPの対応

A+ (100～90点)	: GP4.0
A (89～80点)	: GP3.0
B (79～70点)	: GP2.0
C (69～60点)	: GP1.0
D (59点以下)	: GP0.0

学期GPA算出方法

$$\frac{\text{当該学期のA+の単位数} \times 4.0 + \text{Aの単位数} \times 3.0 + \text{Bの単位数} \times 2.0 + \text{Cの単位数} \times 1.0}{\text{当該学期の履修登録科目単位数の合計}}$$

累積GPA算出方法

$$\frac{\text{在学期間中のA+の単位数} \times 4.0 + \text{Aの単位数} \times 3.0 + \text{Bの単位数} \times 2.0 + \text{Cの単位数} \times 1.0}{\text{在学期間中の履修登録科目単位数の合計}}$$

各科目においては、多面的・総合的に判断し、評価基準は測定可能なものとし、学生から評価の根拠を照会された場合、その根拠を明確に説明できるようにしている。

なお、卒業認定・学位授与要件の一つとして、累積GPA1.0以上が盛り込まれている。

成績通知書には当該学期の学期GPA・累計GPAを記載し、各学期末に学生と父母等に通知している。

各学期末に算出したGPAの一覧を各学科へ報告し、各学科においては、それを基に学生への個別支援や履修指導等を行っている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	『GPAの算定について』 https://www.fukushima-college.ac.jp/gpa/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学公式ウェブサイト等を通じて公表している。規定する個々の評価を本学が定めるGPA基準により総合的な学修経験を通して修学し、短期大学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「短期大学士」の学位を授与する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	『福島学院大学短期大学部 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）』 保育学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/ 食物栄養学科 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福島学院大学短期大学部
設置者名	学校法人 福島学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
財産目録	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
事業報告書	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/
監事による監査報告(書)	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_evaluation/
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	
-------	--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/) (概要) 本学は、学校教育法に定められた目的に沿って、建学の精神及び教育の理念・教育目的ののっとり、短期大学教育を受ける者として教養を深めながら、専門領域における知識・技能を修得し、職業や実生活に必要な力を養うとともに、保育の専門分野において資格や免許等の所得に向けた体系的な学修を行う。 保育学科の教育目標は、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成することとしている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/ 、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/) (概要) 保育学科の教育目的及び人材の目的に基づき、保育学科教育課程における学修を通して、総合力、課題解決力、構築力、コミュニケーション力、実践力等を身につけ、短期大学部学則に定める卒業に必要な要件を満たした者に対して卒業を認定し、「短期大学士（保育学）」の学位を授与することとしている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/ 、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/) (概要) 保育学科は、卒業認定や学位授与に求められる知識及び技能を身に付けるために、体系的な教育課程を編成している。教育課程は、教養教育科目と専門教育科目に大別され、学生の主体的な学びを構築するために、カリキュラムツリーやナンバリング等によって体系化されている。なお、資格・免許状にかかる授業科目の単位を修得した者に、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状が取得できるような教育課程としている。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/ 、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/) (概要) 建学の精神「真心こそすべてのすべて」、短期大学の教育の理念及び教育目的を理解し、保育学科の専門分野への強い興味と将来の職業に連結した意欲を有している次のような学生を求めている。 (1) 保育や幼児教育の学修に必要な基礎学力と教養を有している。 (2) 保育学科での学修や活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有し、かつ、粘り強く取り組むことができる強い意志がある。 (3) 保育士資格、幼稚園教諭二種免許状の取得を目指し、将来、それを生かした職業に就き、社会へ貢献しようとする志がある。

学部等名 食物栄養学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_report/) (概要) 食物栄養学科においては、実学を重視して、豊かな教養と、よりよい食生活を実現するための理論と実践力を身につけた人材を育成することを教育目標としている。将来、栄養士として、生涯にわたって学び続けながら地域・社会に積極的かつ実践的に貢献できる人材を輩出する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/) (概要) 食物栄養学科の教育研究上の目的に基づき、各本学科における学修を通して、必要な能力・技術等を身につけ、学則に定める卒業に必要な条件として「総合力」、「問題発見・解決力」、「構想・構築力」、「コミュニケーション力」、「実践力」を身につけたものに対して卒業を認定し、「短期大学士（食物栄養学）」の学位を授与することとしている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/) (概要) 食物栄養学科は各学問分野の専門性において、卒業認定・学位授与に求められる能力や素養を身につけるために、体系的な教育編成を構築している。なお、「栄養士養成課程」に基づく教育課程を履修し、単位を修得した者に栄養士免許状が取得できるよう教育課程を編成している。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/feature/、 https://www.fukushima-college.ac.jp/jc_syoku_learning/) (概要) 食物栄養学科では、建学の精神「真心こそすべてのすべて」に則り、Sincerity（真心＝偽りや飾りのない心）とHospitality（思いやり）の体得に努め、探求心を持って地域・社会に積極的かつ実践的に貢献しようとする意思と意欲を持つ学生を募集している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/research_organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
保育学科	－	3 人	2 人	6 人	0 人	0 人	11 人
食物栄養学科	－	3 人	1 人	2 人	0 人	0 人	6 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2 人		0 人					2 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.fukushima-college.ac.jp/teacher_profile/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育学科	50 人	47 人	94.0%	150 人	97 人	64.7%	人	人
食物栄養学科	50 人	18 人	36.0%	100 人	42 人	42.0%	人	人
合計	100 人	65 人	65.0%	250 人	139 人	55.6%	人	人
（備考） ※令和 8 年度より保育学科入学定員減（100 人→50 人）								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
保育学科	67 人 （ 100%）	1 人 （ 1.5%）	60 人 （ 89.5%）	6 人 （ 9.0%）
食物栄養学科	20 人 （ 100%）	1 人 （ 5.0%）	17 人 （ 85.0%）	2 人 （ 10.0%）
合計	87 人 （ 100%）	2 人 （ 2.3%）	77 人 （ 88.5%）	8 人 （ 9.2%）
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目は、各学科において教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき体系的に編成している。 シラバスの内容について卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、他授業との関連性について点検を行うなど、授業の工程表として機能するように作成している。 各シラバスには、授業回（通常 15 回）ごとの具体的な授業内容や課題、使用教材、成績評価方法などを記載し、web 履修登録に先立ち学生に公開している。また、履修登録前には、学科別オリエンテーションにてシラバスの活用方法を説明し、学生が主体的に学修計画を組み立てられるよう支援している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学則および履修規程に基づき、すべての授業科目において、学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。 また、シラバス記入要領により成績評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、学生が授業の到達目標に対する達成度及び修得した基礎知識・技能等をどの程度達成したかを、多面的・総合的に判断して行い、客観的および厳格性を確保するため、ペーパーテストのみで評価することのないよう、評価の配分割合も明記することを求めている。 また、学生に対しては初回授業において、成績評価の方法や基準について具体的に説明を行うことを義務付けており、より公正な成績評価の実現に向けて、補足的事項（シラバス記入要領 P13～P15）も設けている。 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本学が定める GPA 基準により総合的な学修経験を通して、短期大学士の学位を授与するにふさわしい人格と識見と健全な精神を有していると学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「短期大学士」の学位を授与する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	保育学科	64 単位	有・無	単位
	食物栄養学科	62 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/campus_index/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学部	保育学科	780,000 円	120,000 円	295,000 円	教育充実費 280,000 円、 家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を実費徴収
	食物栄養学科	780,000 円	120,000 円	300,000 円	教育充実費 285,000 円、 家族会費 15,000 円 ※その他、実験実習費を実費徴収

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 遠方からの入学者のためにアパート情報の提供や、アルバイト・ボランティアの情報を提供している。また、日本学生支援機構や社会福祉協議会等の各種奨学金について説明会や個別相談を行う等、学生の手続きが円滑に進むよう支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援課と学科キャリア担当教員が連携し、学生の進路相談を個別にきめ細かく実施し学生満足度の高い進路決定の支援をしている。自己分析や業界・職業研究等のガイダンスやセミナーを実施するだけでなく、応募書類の書き方説明や面接指導など、就職活動の支援を行っている。福島新卒応援ハローワーク、社会福祉協議会、私立幼稚園・認定こども園連合会、市役所等と連携を取り、学内就職説明会や見学会を実施するほか、求人情報や説明会等の情報を随時提供している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 年1回の定期健康診断だけでなく、全学生から健康調査票を収集し健康状態の把握に務めている。医務室は時期に応じた健康に関する注意喚起を定期的の実施、また学科教員との連絡を密にし、体調不良の学生へのアフターフォローを徹底している。定期的に学生健康相談委員会、障がい学生支援委員会を開催し、情報共有や課題について話し合いを行っている。また、臨床心理士・公認心理師資格を持つ学生カウンセラーを配置し、学生からの個別相談を受け、学生の心の支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_activity/ 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F207310101394
学校名（〇〇大学 等）	福島学院大学短期大学部
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人福島学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		63人（ 36 ）人	62人（ 37 ）人	60人（ 35 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	15人	16人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ ー人）	
	第Ⅱ区分	14人	11人	
	（うち多子世帯）	（ ー人）	（ ー人）	
	第Ⅲ区分	7人	5人	
	（うち多子世帯）	（ ー人）	（ ー人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	9人	13人	
	区分外（多子世帯）	18人	17人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				60人（ 35 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	一人	一人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。